

## 次期舞鶴市文化振興基本計画策定の方向性について

### 【方向性案】

- 現基本計画の基本的な枠組みを継承し、現計画に不足していた視点を追加したり、時代の変化による修正・加筆を加える形で策定したい。
- 10年ぶりの計画策定であり、また今後8年度を見据えた文化振興の方向性を考えるため、市民の意見を聴取するワークショップを3回開催したい。(開催のための委託費を予算計上予定)
- 新計画は、市の総合計画と同様に8年計画にしたい。  
(文化振興基本計画と総計中間見直しが同じ年になる)。

### 【追加したい視点】

- 基本計画の進行管理を庁内全体でしっかり行うための仕組みを強化。
  - ・個別事業カードの作成(事業の狙い・目標指標)
  - ・庁内連絡会議の開催
- 現計画期間(10年間)の取組の成果と課題
- 文化財の保存活用(※令和3年7月に「舞鶴市文化財保存活用計画」策定)の視点を反映させる。  
(例)・生涯学習における文化(歴史・芸術)の振興。
  - ★祭礼等記録映像の保存
  - ★資料館が持っている歴史的資料や古地図のデータをオープン化
- 生活文化と芸術文化のそれぞれを網羅する内容に。
- 生涯学習も視野に入れた計画に。(図書館、公民館、博物館、美術館、文化ホールなど)
- 文化権について、文化権の中身(子供にとって、外国人にとってなど)を整理して記載。
  - ★アートスタートやアートプログラムデリバリーの評価と今後の発展性
  - ★アウトリーチの対象を増やす(子どもだけではなく、子育て中の母、介護をしている方など)。
- 事業の幅を広げるにはどうしたら良いか、人材をもっと発掘するにはどうしたらよいか。若い人材が活躍できるような視点。
  - ★音響照明講座などの開催による地域の人材育成
  - ★子育て世帯・障害者等々の参加促進

- 地域性（東西、加佐、大浦地区）を生かしたものとする。
- 文化交流の人口の増加や活力に満ちた都市創造に繋がる情報発信方法の工夫。
- 文化観光（文化財を活かしたまちづくり）の視点を追加。

